

# 研究計画書の書き方

以下は、日本福祉大学福祉経営学部（通信教育）医療・福祉マネジメント学科「研究論文指導」課題選考のうち共通課題（研究計画書）の書き方について説明するものです。「研究論文指導」を受講するための選考試験を受験する方はこれを参考にして研究計画書を作成し、期限内に提出してください。

## 1. 「研究論文指導」課題選考の概要

- ・「共通課題」（研究計画書）と「指定課題」（希望する教員が課す個別課題）の選考において、合格と評価された方に限り面接選考を受けることができます。そして面接選考の判定において合格と評価された方は、研究論文の指導を受けることができます。
- ・「共通課題」としては、みなさんがどのような研究論文をどのようにして作成するかを記す「研究計画書」を提出してください。
- ・教員によっては、共通課題とは別に「指定課題」が課されている場合があります。別紙1「指導分野、指導方針と指定課題について」を参照し、所定の様式で「指定課題」についてまとめてください。希望教員が複数いる場合、指定課題は第1希望教員、第2希望教員それぞれに作成し提出してください。なお、希望教員からの指定課題がない場合は提出する必要はありません。
- ・研究計画書は、合格後の研究論文指導で使用することになります。ワープロソフトを用いて作成し、データは必ず各自のパソコンに保存しておいてください。原則として、フォントサイズは10.5とし、図表等を含めても構いません。全体の文字数は4,000字以内とします。指定課題の文字数等は出題教員の指示に従ってください。共通課題（研究計画書）も指定課題も、ともに用紙を掲示板からダウンロードできます。原則として、これら用紙の書式にしたがって作成し、提出してください。

## 2. 研究計画書【共通課題】の記載項目の説明

共通課題で求められる各項目に対しては、以下を参考に記述してください。

なお、これに加えて、「研究とは何か」「論文はどのようにして書くのか」を知るための参考書を少なくとも1冊選び、必ず目を通すようにしてください。例えば、以下のようなものがあります。

- ・白井利明・高橋一郎 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2008。  
（広範囲のポイントを1項目ずつ見開き原則2ページで簡潔に説明、わかりやすい。価格は2,700円）
- ・小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009。  
（インターネットを利用した情報検索法に重点を置き、通信制学生に有益。価格は799円）
- ・木下是雄『理科系の作文技術』中公新書（624）、1981。  
（理科系向けであるが、社会科学にも通じる内容であり、わかりやすい。たとえば「パラグラフとは何か」をこの本から知るだけでも、文章は格段に論理的になる。価格は756円）

※金額は2017年3月現在のものです。

### (1) 論文タイトル

タイトルは後に改訂してもかまいませんが、適切なタイトルを定めることは、自分の問題意識を鮮明にする上でも大切です。主題と方法を表し、じゅうぶん限定的に（つまり例えば「福祉社会の研究」などと大風呂敷にせず）、かつ一目で内容がわかり、スラスラとメッセージを受けとれるものが、良いタイトルです。

副題を付けるなど、キーワードを落とさず入れ込んで、タイトルだけでもポイントが理解されるように心がけてください。ただし副題をつけるときは、ズラズラと似た内容を繰り返さずに、①「主題」「副題」でそれぞれ対象と方法を示す（「被差別部落女性のエンパワメントプロセス—福岡県A地区におけるライフヒストリー分析」）とか、②「主題」で示したテーマの範囲（場所、期間、視点）を「副題」によって限定する（「新自由主義の下での社会保障政策の分析：小泉政権期の生活保護家庭の就労と所得変動に注目して」）とか、③主テーマを具体化する事例を副題で示す（「高齢者の相互交流の介護予防効果：韓国の敬老堂と武豊町の高齢者サロンの比較分析」）など、メリハリをつけることが大切です。

## (2) 問題意識

「問題意識」は、なぜこの研究タイトルに興味を持ったのか、その動機を明記する部分です。

職場や日常生活において問題を認識する場合や、関心のある専門分野において過去の研究状況の中から課題を発見する場合など、問題意識の状況は人により異なります。この部分は主観的な視点、或いは個人的な動機が入っても構いませんので、なぜ自分の問題意識が醸成されたのかということを書き込んでください。

## (3) 研究目的

「研究目的」とは、これから行う研究によって何を明らかにするのかということを書ける部分です。これを明確に示してください。あまりずらずらと長く書くものではありません。「この研究の目的は、・・・を明らかにすることである。」のような簡潔な一文でもよいのです。研究目的は、先の問題意識から導き出されるものですので、これらとの整合性には特に注意を払って明記してください。

## (4) 既存研究の検討

この部分は、現段階で最も力を入れて書いてほしいところです。自分の研究目的にそった領域での基礎的な理論や歴史を踏まえ、この分野ではどういう人・グループ（このグルーピングすること自体が研究上の成果となることがある）が、何を問題にして、どのような方法によって調査し、どこまで明らかにしており、どのような理論や理論的視野によって、他の論者はどういう異なる見解をなぜ取っているのか、論争があるとすれば論点は何か、ということを書き明かし、そして、その文脈で自分はどういう立場からアプローチするか、を述べるのがこの部分です。また、どのような研究・調査方法や理論検証が行われているかを考察する必要があります。これを「先行研究のレビュー」といいます。これによって自分の問題意識や研究目的の「相対化」がなされ、①既存の知的体系の中に位置づけて自分の研究意義を科学的に主張する、②自分のオリジナリティを確かめる、ことができます。

既存研究を調べる方法には、次のような方法があります。始めから場当たりの研究文献を読むのは避けるべきでしょう。また、インターネットの情報は大変便利ですが、科学的に信頼できる情報源であるかどうかを確認し、ゴミも多いので過信しないように気をつけてください。

- ・インターネットの検索システム、例えば Google Scholar 等を通じて、特定のテーマに関連する本や論文等を探することができます。
- ・みなさんの地域の図書館や本学図書館で、自分のテーマに関わる著作の「文献目録」をみる。その分野でどのような本が出ているのかが分かります。また図書館に所蔵する主要雑誌の目次を遡ることで、とくに学会の専門誌をながめる（一覧する）のは有益でしょう。
- ・本学図書館の所蔵目録検索（本学所蔵と他大学等所蔵を選択可能）を利用して、特定のテーマに関連する本を探し、できればその本の中にある参考文献も探すことも考えられるでしょう。他大学等の所蔵の本も本学図書館を通じて貸出し可能です。
- ・本学大学図書館にインターネットでアクセスし (<http://library.n-fukushi.ac.jp/index.cgi>)、データベースを利用します。本学大学図書館の雑誌記事データベースのうち、Cini や、NDL-OPAC（国会図書館蔵書目録）は、みなさんの自宅から利用できます。これら雑誌記事検索システムを使って、特定のテーマに関する論文または記事を探します。雑誌論文の中には、特定のテーマに関して一定の時期に現われた研究文献の特徴と評価を示す「レビュー論文」などがあります。さらにインターネットを通じて、全文をダウンロードできる電子ジャーナルもかなり充実してきています。たとえば、国立社会保障・人口問題研究所の「人口問題研究」「季刊社会保障研究」「海外社会保障研究」の各誌はバックナンバーを無料でダウンロード可能です。本学図書館のサイトから探すこともできますが、直接それぞれの大学や研究所のサイトにアクセスしてもいいわけです。
- ・本学大学図書館のデータベースには、契約によって「図書館内での利用」に限定されているものがあります。もし本学（美浜、半田、名古屋）に来る機会があれば、キャンパス内でこれらを利用すること

ができます。専門の電子ジャーナル以外にも、たとえば、特定のテーマに関する新聞記事をキーワードで検索する「日経テレコン 21」（日経新聞等）、「聞蔵Ⅱビジュアル」（朝日新聞）、「毎日 News パック」、「ヨミダス歴史館」（読売新聞）、「中日新聞データベース」、等があります。遠方の方は、地域の公共図書館に相談するとよいでしょう。

・本屋さんの書棚から特定のテーマに関する本を探すこともひとつの方法ですが、まず自分の分野についての全貌を把握して、自分が手に取った本がどういう位置にあるかを知っておかねばならないわけです。

## (5) 研究方法

この部分の詳細は、実際には、担当指導教員が定まった後に、個別に指導を受けることになるでしょう。ここでは、研究調査の方法としてどんなことを想定しているか、イメージ・考えが希望教員にわかるように記してください。

研究方法論の参考書としては膨大な数のものがありますが、比較的最小さんに読みやすいと思われるものとして、岩田正美ほか編『社会福祉研究法』（有斐閣、2006）や訓覇法子・川床憲一「社会福祉調査論」（日本福祉大学通信教育部、2012）をあげておきます。

研究方法とは、上の研究目的を明らかにするために「どのようなデータを」、「どのようにして集め」、「どのように解釈し、分析するか」ということです。研究目的にアプローチするにも、たいていはいくつかの段階に分かれるので、それぞれの段階に対応して適切な研究方法が選ばれます。

たとえば「高齢者の相互交流の介護予防効果を明らかにする」のが研究目的である場合は、まず最初の段階として、この問題の所在を社会的に明らかにするために、日本（あるいは特定の地域）における高齢化の度合いや高齢者の健康状況を、政府関係の統計資料や既存の研究書など文献を集めて、歴史的・地域的に比較分析することになるかもしれません。また、相互交流の予防効果が実証されているのかどうかを調べる必要があります。

次の段階として、適切な地域や施設群を選び、そこでの注目すべき相互交流の試みの実態を、関係者へのインタビューや既存の資料、新聞記事等々から調べて、自分の問題視点から再構成することになるでしょう。

さらに、適切な指標を定めて、（正しいサンプリングに基づき）質問票調査を実施して、効果についての測定をすることも考えられます。類似した他地域との比較から、それぞれの特徴を（比較の枠組みを定めた上で）描き出すこともあるでしょう。あるいは、一定期間、自ら相互交流プログラムの推進メンバーの一員としてその展開に参加し、「内側」から高齢者の変化を観察し記述していく「参与観察」法をとる場合もあるでしょう。もちろん、これら複数の（あるいは他の方法との）組み合わせもありえます。論文をまとめる段階では、調査の実施内容を批判的に吟味し、収集したデータの妥当性や信憑性が論文の質として問われることをできる限り考慮して計画してください。

研究目的とそこに至るプロセス、自分の立場や能力、資料の蓄積の度合い、といったことに照らして、どのような研究方法をとりたいと考えているか、希望教員に伝わるように記してください。ここで最も重要なことは、行き当たりばったり、たまたま出会った事例や資料を基に分析するのではなく、最低限の科学的な客観性・論理性を保つ、ということです。あるいは自分の出会った事例や資料は全体の構造の中でどういう位置にあるのか、自分で相対化できる、ということです。これまで研究方法のトレーニングを受けてこなかった方々には、難しい部分かもしれませんが、自分で学習した範囲で現段階でベストと思われる内容を記してください。

## (6) 研究スケジュール

「研究スケジュール」は、研究の事前調査、具体的な調査研究、調査結果の分析と解析、論文執筆、論文推敲などについて大まかなタイムスケジュールを時系列的に列挙してください（研究論文指導の受講期間は基本的に1年間です）。また既に調査などが一部済んでいる場合にはその旨を分かるように明記してください。

## (7) 参考・引用文献

最後にこの研究計画書を作成するにあたって使用した参考・引用文献を明示してください。引用文献と参考文献を別に記述しても構いません。また参考・引用したインターネットや新聞記事を明記しても構いません。文献の記載方法については、複数のスタイルがありますが、一般的には以下の要領で、著者名、著書名、出版社、出版年等々を記します。こういう作法も、論文の書き方の参考書や、実際の論文例を見ながら身につけてください。

### 【単行本の場合】

遠田雄志『あいまい経営学』日刊工業新聞社、1990、p. 56

### 【雑誌論文の場合】

綾部誠「適正技術論の体系と政府開発援助の理念」『開発技術』、Vol. 9、開発技術学会、2003、pp. 79-86

### 【翻訳書の場合】

E. M. ロジャーズ、青池慎一他訳『イノベーション普及学』産能大学出版部、1990

### 【共著者の場合】

川田侃ほか『経済開発と技術移転』日本国際問題研究所、1983

### 【インターネットの場合】

佐藤安信「紛争と開発」、2001

<http://www.jica.go.jp/branch/ific/jigyo/report/field/peace.html> 2012年2月10日ダウンロード

### 【新聞の場合】

『日本経済新聞』2006年7月30日

以上